

外書について

1. 図書

国際日本文化研究センターでは、外国語で書かれた日本関係図書を「外書」と呼んでいる。平成16年8月現在、約49,000冊所蔵している。

2. 外像データベース

外書の中の挿絵（外像）は「外国人が見た日本」であり、日本文化を視覚でとらえたもので、日本研究に必要な貴重な映像資料である。しかし、1900年以前に刊行された外国語で書かれた日本研究図書（外書）は発行部数が少なく、海外の日本研究者にとって入手が困難である。また、挿絵の数は膨大な量であり、研究者個人が外書の中から手作業で必要な挿絵を見つけ出すことは困難であるため、データベース化を実施した。

国際日本文化研究センターが所蔵する「外書」のうち、1900年以前に刊行された図書に掲載されている写真、挿絵等（外像と呼ぶ）を画像データベースとして収録し、図名、書名、人名、年代等について原語及び和訳したものをテキストデータとして付加し、キーワード等によって検索が可能なデータベースである。平成4年（1992年）から画像の撮影、データの作成、入力作業を始め、平成9年（1997年）にデータベースとして公開した。平成16年（2004年）10月現在、923冊、50,309件が収録されている。

所蔵する外書のうち283冊がまだデータベース化されていない。今後年間50冊程度増加することが見込まれるが、引き続きデータベース化していく予定である。